

■本書の特徴と使い方

本書には、わかりやすさと使いやすさの工夫が多く入っています。

目次	
基本編	
第1章 財務諸表（貸借対照表と損益計算書）	3
1-1 □□□ 財務諸表の基礎知識	4
1-2 □□□ 貸借対照表の作成	5
1-3 □□□ 損益計算書の作成	7
1-4 □□□ 借方と貸方	9
1-5 □□□ 貸借対照表と損益計算書の関係	10
1-6 □□□ 財務諸表の作成	12
第2章 簿記の全体像	17
2-1 □□□ 財務諸表の作成（試算表含む）	18
第3章 基本的な取引と勘定科目	25
3-1 □□□ 財務諸表の作成（試算表含む）	26
第4章 商品売買	35
4-1 □□□ 掛け取引①	36
4-2 □□□ 掛け取引②	38
4-3 □□□ 手付金	40
4-4 □□□ 返品	42
4-5 □□□ 商品売買に伴う諸経費（当社負担）	44
4-6 □□□ 商品売買に伴う諸経費（先方負担）	46
4-7 □□□ 商品券	48
4-8 □□□ クレジット売掛金	49
4-9 □□□ 約束手形①	51
4-10 □□□ 約束手形②	53
4-11 □□□ 電子記録による債権・債務	54
4-12 □□□ 貸倒れ	56

目次 i

基本編の章番号は、『いちばんわかる 日商簿記3級の教科書』の章番号に対応しています。

目次には、チェック欄がついています。解けたら「○」を、解けなかったら「×」を記入し、どの問題も「○」にするように勉強しましょう。

▶書籍の訂正について

発行後に判明した誤植等の訂正については、下記のURLに記載しております。

cpa-learning.com/boki_teisei



1-2 貸借対照表の作成

X1年3月31日のA社の財政状態は次のとおりである。そこで、解答欄に示した貸借対照表を作成しなさい。

現金	1,000,000	売掛金	2,000,000	買掛金	5,200,000
資本金	5,300,000	建物	8,000,000	土地	4,000,000
借入金	1,600,000	貸付金	400,000	繰越利益剰余金	?

■解答欄

貸借対照表					
A社 X1年3月31日 (単位:円)					
資産	金額	負債・資本	金額		
現金	1,000,000	買掛金	5,200,000		
()	()	()	()		
建物	8,000,000	()	()		
()	()	繰越利益剰余金	()		
()	()	()	()		

■解答・解説 貸借対照表の作成

貸借対照表					
A社 X1年3月31日 (単位:円)					
資産	金額	負債・資本	金額		
現金	1,000,000	買掛金	5,200,000		
売掛金	2,000,000	借入金	1,600,000		
建物	8,000,000	資本金	5,300,000		
土地	4,000,000	繰越利益剰余金	3,300,000		
貸付金	400,000				
	15,400,000		15,400,000		

※資産の内訳は、解答と順番が異なっても構わない。

各問題にもチェック欄をつけています。ここでは、日付も記入できるようになっています。

繰り返し解けるよう、CPAラーニングから解答欄のPDFデータがダウンロードできるようになっています。ぜひご利用ください。

問題のすぐ下に解答と解説を用意しました。ページを行き来することなく、すぐに確認ができるようになっています。

1. 本問の勘定科目

勘定科目	意味	5要素
現金	紙幣や硬貨などの通貨	資産
売掛金	商品を販売したが代金を受け取っていない場合の、代金を回収する権利	
建物	店舗・事務所・倉庫など	
土地	建物のための敷地	
貸付金	金銭を貸し付けた場合の、その金額を回収する権利	
買掛金	商品を購入したが代金を支払っていない場合の、代金の支払義務	負債

2. 繰越利益剰余金の金額

まず、資産と負債の差額から資本合計を求める。そして、資本合計から資本金の額を引くことで繰越利益剰余金を算定することができる。

資本合計：資産合計15,400,000 - 負債合計6,800,000 = 8,600,000
 繰越利益剰余金：資本合計8,600,000 - 資本金5,300,000 = 3,300,000

POINT

- 勘定科目は、「その勘定科目は、どの要素に属するのか」をおさえることが重要。
- 資産は、会社が所有するすべての財産のことで、現金、物、権利に分類される。
- 負債は、資金の調達源泉のうち返済義務のある金額のこと。
- 資本は、資金の調達源泉のうち返済義務のない金額のことで、元手と利益に分類される。

解説には、その問題で登場した勘定科目の説明を入れているので、わからない勘定科目はその場ですぐに確認することができます。

その論点のポイントとなる部分はPOINTにまとめています。

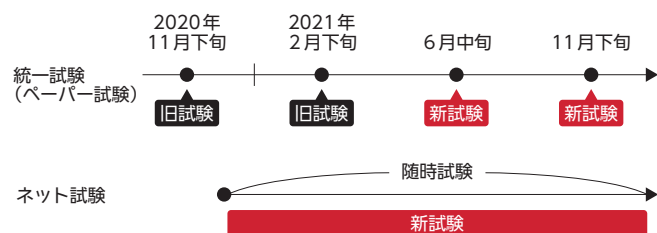
■ 日商簿記検定3級について

1. 従来の試験制度（旧試験）と新試験について

2020年12月よりネット試験が導入され、新試験が施行されました。新試験では以下のように形式面が変更されています。なお、試験範囲に変更はありません。

	従来の試験（旧試験）	新試験
試験時間	2時間	1時間
試験形式	・年3回のペーパー試験 （統一試験）	・年3回のペーパー試験 ・随時実施のネット試験

年3回のペーパー試験を「統一試験」といい、統一試験は6月中旬（第2日曜日）、11月下旬（第3日曜日）、2月下旬（第4日曜日）の年3回実施されます。旧試験による統一試験は2021年2月（第157回）が最後で、それ以降は新試験になります。



2. ネット試験とは

ネット試験は、インターネット経由で配信される問題をPCの画面上で受験する試験方式です。ネット試験は、商工会議所が認定したテストセンターで受験します（自宅での受験は不可）。また、合否はその場ですぐに判明します。問題および答案用紙はPCの画面上に表示されますが、計算用紙が配布されるので、そこまで大きな不便はありません。

ネット試験の実施日時はテストセンターにより異なります（テストセンターによっては毎日実施しているところもある）。問題の難易度や出題傾向などは統一試験と全く同じなので、ネット試験と統一試験のどちらで合格しても資格の価値は変わりません。

ネット試験の申込ページ▶

<https://cbt-s.com/examinee/examination/jcci.html>



3. 試験の概要

受験資格	なし													
申込期日	<ul style="list-style-type: none"> 統一試験 受験日の約2ヶ月前から約1ヶ月間（受験希望地の商工会議所によって、申込期日や申込方法は異なる） ネット試験 申込日より3日目以降（例：10日申込の場合13日以降）の予約が可能（https://cbt-s.com/examinee/examination/jcci.html） 													
受験料	税込2,850円（ネット試験の場合、事務手数料550円が別途発生）													
試験科目	商業簿記													
合格基準	70%以上													
出題形式と配点	確実に合格するためにも、80点以上を取ることを目標に学習するのがオススメです。													
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>形式</th> <th>配点（目標点数）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1問</td> <td>仕訳問題（15問）</td> <td>45点（36点）</td> </tr> <tr> <td>第2問</td> <td>帳簿、勘定記入、文章の穴埋め問題など</td> <td>20点（14点）</td> </tr> <tr> <td>第3問</td> <td>決算の総合問題</td> <td>35点（30点）</td> </tr> </tbody> </table>		形式	配点（目標点数）	第1問	仕訳問題（15問）	45点（36点）	第2問	帳簿、勘定記入、文章の穴埋め問題など	20点（14点）	第3問	決算の総合問題	35点（30点）
		形式	配点（目標点数）											
	第1問	仕訳問題（15問）	45点（36点）											
第2問	帳簿、勘定記入、文章の穴埋め問題など	20点（14点）												
第3問	決算の総合問題	35点（30点）												
第1問	仕訳問題（15問）	45点（36点）												
第2問	帳簿、勘定記入、文章の穴埋め問題など	20点（14点）												
第3問	決算の総合問題	35点（30点）												
筆記用具について	試験では、HBまたはBの黒鉛筆、シャープペン、消しゴムが使用可（ラインマーカー、色鉛筆、定規等は使用不可）。なお、ネット試験の場合、筆記用具はテストセンターが用意したもののみ使用できます。													
計算器具について	<p>電卓の持ち込み可（ただし、計算機能（四則演算）のみのものに限り、例えば、次の機能があるものは持ち込み不可。</p> <ul style="list-style-type: none"> 印刷（出力）機能、メロディー（音の出る）機能、プログラム機能（例：関数電卓等の多機能な電卓、売価計算・原価計算等の公式の記憶機能がある電卓）、辞書機能（文字入力を含む） <p>ただし、次のような機能は、プログラム機能に該当しないものとして、試験会場での使用を可とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日数計算、時間計算、換算、税計算、検算（音の出ないものに限る） 													
合格率	50%前後であることが多い													

※本書の刊行時のデータです。詳細な情報や最新の情報は商工会議所のWEBサイトをご確認ください。
(<https://www.kentei.ne.jp/bookkeeping>)

■CPAラーニングを活用しよう！

CPAラーニングは、CPA会計学院が運営する、簿記を無料で学習できるWEBサイト。公認会計士講座を50年以上運営してきたCPA会計学院だからできる、一番わかりやすい簿記講座を無料で提供します。



〈CPAラーニングの特徴〉

特徴1 プロの講義を動画で学習

「いちばんわかる日商簿記3級の教科書」を使用した講義を受講することができます。全講義を視聴することはもちろん、理解が難しい論点のみを視聴することも可能です。講義は公認会計士講座の講師が担当しているので、本質が理解できるわかりやすい講義を展開します。

特徴2 教材はダウンロード可能

CPAラーニングには、教科書、問題集、模擬試験などを掲載しています。また、本書の解答欄をまとめたPDFファイルも用意してあります。これらの教材はすべてダウンロードすることが可能です。

特徴3 完全無料

CPAラーニングのコンテンツは無料でご利用できます。ユーザー登録は最短1分で完了します。ぜひご利用ください。



目次

基本編

第1章	財務諸表（貸借対照表と損益計算書）	3
1-1	□□□ 財務諸表の基礎知識	4
1-2	□□□ 貸借対照表の作成	5
1-3	□□□ 損益計算書の作成	7
1-4	□□□ 借方と貸方	9
1-5	□□□ 貸借対照表と損益計算書の関係	10
1-6	□□□ 財務諸表の作成	12
第2章	簿記の全体像	17
2-1	□□□ 財務諸表の作成（試算表含む）	18
第3章	基本的な取引と勘定科目	25
3-1	□□□ 財務諸表の作成（試算表含む）	26
第4章	商品売買	35
4-1	□□□ 掛け取引①	36
4-2	□□□ 掛け取引②	38
4-3	□□□ 手付金	40
4-4	□□□ 返品	42
4-5	□□□ 商品売買に伴う諸経費（当社負担）	44
4-6	□□□ 商品売買に伴う諸経費（先方負担）	46
4-7	□□□ 商品券	48
4-8	□□□ クレジット売掛金	49
4-9	□□□ 約束手形①	51
4-10	□□□ 約束手形②	53
4-11	□□□ 電子記録による債権・債務	54
4-12	□□□ 貸倒れ	56

4-13	□□□ 分記法	57
第5章	現金預金	59
5-1	□□□ 通貨代用証券	60
5-2	□□□ 現金過不足	62
5-3	□□□ 小切手の応用的な取引	64
5-4	□□□ 預金に関するその他の論点	66
5-5	□□□ 小口現金	68
第6章	固定資産に関連した取引	71
6-1	□□□ 家賃と地代	72
6-2	□□□ 敷金と仲介手数料	73
6-3	□□□ 固定資産の取得	75
6-4	□□□ 固定資産の売却と未収金・未払金	76
6-5	□□□ 固定資産の修理	78
第7章	資金の賃貸借	79
7-1	□□□ 資金の貸し付け、借り入れ	80
7-2	□□□ 役員に対する貸付金など	82
7-3	□□□ 約束手形による資金の貸し付け・借り入れ	83
第8章	給料に関連した取引	85
8-1	□□□ 一時的な立て替えと預かり	86
8-2	□□□ 所得税、社会保険料の源泉徴収	88
第9章	その他の取引	91
9-1	□□□ 固定資産税や印紙税を支払った場合	92
9-2	□□□ 金額や内容が未確定の支出、内容不明の入金	93
9-3	□□□ 訂正仕訳	95

第10章	帳簿と伝票	97
10-1	□□□ 現金出納帳	98
10-2	□□□ 当座預金出納帳	100
10-3	□□□ 小口現金出納帳	102
10-4	□□□ 受取手形記入帳、支払手形記入帳	104
10-5	□□□ 売上帳	106
10-6	□□□ 仕入帳	107
10-7	□□□ 売掛金元帳（得意先元帳）	109
10-8	□□□ 買掛金元帳（仕入先元帳）	111
10-9	□□□ 商品有高帳	113
10-10	□□□ 伝票①（基本的な起票方法）	117
10-11	□□□ 伝票②（一部現金取引の起票方法）	119
10-12	□□□ 伝票③（総勘定元帳への転記）	121
10-13	□□□ 伝票④（買掛金元帳への転記）	124
第11章	決算Ⅰ（全体像・決算振替仕訳）	127
11-1	□□□ 帳簿の締め切り	128
第12章	決算Ⅱ（総論、減価償却、貸倒引当金、売上原価、経過勘定）	133
12-1	□□□ 減価償却の決算①（当期首に取得）	134
12-2	□□□ 減価償却の決算②（前期以前に取得）	136
12-3	□□□ 固定資産の売却	139
12-4	□□□ 貸倒時の処理	141
12-5	□□□ 貸倒引当金の設定	143
12-6	□□□ 売上原価の算定	146
12-7	□□□ 売上原価を「売上原価」勘定で算定する場合	148
12-8	□□□ 前払費用	150
12-9	□□□ 前受収益	152
12-10	□□□ 未払費用	154
12-11	□□□ 未収収益	157
12-12	□□□ 経過勘定の財務諸表表示	160
12-13	□□□ 決算の総合問題	162

第13章 決算Ⅲ (現金過不足、貯蔵品、当座借越) 169

13-1	□□□ 「現金過不足」勘定が借方残高の場合	170
13-2	□□□ 「現金過不足」勘定が貸方残高の場合	172
13-3	□□□ 決算日に現金過不足が生じた場合	174
13-4	□□□ 貯蔵品の整理	176
13-5	□□□ 当座借越の整理	178

第14章 決算Ⅳ (精算表、月次決算) 181

14-1	□□□ 精算表の基本① (減価償却)	182
14-2	□□□ 精算表の基本② (貸倒引当金)	184
14-3	□□□ 精算表の基本③ (売上原価)	186
14-4	□□□ 精算表の基本④ (経過勘定)	188
14-5	□□□ 精算表の推定	190
14-6	□□□ 精算表の総合問題	193
14-7	□□□ 月次決算	197

第15章 株式会社会計・税金 199

15-1	□□□ 増資	200
15-2	□□□ 利益剰余金の配当および処分	201
15-3	□□□ 法人税等	203
15-4	□□□ 消費税	205

第16章 証ひょう 209

16-1	□□□ 証ひょう	210
------	----------	-----

試験対策編

第1問対策 215

1-1	□□□ 商品売買	216
1-2	□□□ 現金預金	226
1-3	□□□ 固定資産、資金の貸借、給料、その他の取引	232
1-4	□□□ 決算関連	242
1-5	□□□ 株式会社会計、税金、証ひょう	249

第2問対策 257

2-1	□□□ 補助簿の選択	258
2-2	□□□ 勘定記入① (分記法と三分法)	261
2-3	□□□ 勘定記入② (経過勘定)	264
2-4	□□□ 勘定記入③ (固定資産台帳)	267
2-5	□□□ 文章の穴埋め①	269
2-6	□□□ 文章の穴埋め②	271
2-7	□□□ 文章の穴埋め③	273

第3問対策 275

3-1	□□□ 財務諸表の作成①	276
3-2	□□□ 財務諸表の作成②	284
3-3	□□□ 決算整理後残高試算表の作成	292
3-4	□□□ 精算表の作成①	300
3-5	□□□ 精算表の作成② (推定問題)	309

模擬試験

模擬試験は、問題及び答案用紙は別冊に、解答解説は本書に収録しています。

第1回模擬試験

問題.....	別冊	3
答案用紙.....	別冊	9
解答解説.....		319

第2回模擬試験

問題.....	別冊	13
答案用紙.....	別冊	19
解答解説.....		328

第3回模擬試験

問題.....	別冊	23
答案用紙.....	別冊	29
解答解説.....		337

基本編

第 1 章

財務諸表 (貸借対照表と損益計算書)

問題	ページ	出題論点
1-1	4	財務諸表の基礎知識
1-2	5	貸借対照表の作成
1-3	7	損益計算書の作成
1-4	9	借方と貸方
1-5	10	貸借対照表と損益計算書の関係
1-6	12	財務諸表の作成

1-1 財務諸表の基礎知識

次の空欄①～⑩に当てはまる語句または金額を答えなさい。

1. 下記の表は（ ① ）を示す財務諸表であり、（ ② ）という。

（ ② ）

（ ③ ）	860	（ ④ ）	340
		資本	（ ⑤ ）

2. 下記の表は（ ⑥ ）を示す財務諸表であり、（ ⑦ ）という。

（ ⑦ ）

（ ⑧ ）	（ ⑨ ）	（ ⑩ ）	900
当期純利益	250		

■ 解答欄

①	②	③	④	⑤
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

解答・解説 財務諸表の基礎知識

①	財政状態	②	貸借対照表	③	資産	④	負債	⑤	520
⑥	経営成績	⑦	損益計算書	⑧	費用	⑨	650	⑩	収益

1. 下記の表は財政状態を示す財務諸表であり、貸借対照表という。

貸借対照表

資 産	860	負 債	340
		資 本	520

※資本：資産860－負債340＝520

2. 下記の表は経営成績を示す財務諸表であり、損益計算書という。

損益計算書

費 用	650	収 益	900
当期純利益	250		

※費用：収益900－当期純利益250＝650

POINT

- ・貸借対照表は財政状態を示す財務諸表で、資産、負債、資本の3要素を用いる。
- ・損益計算書は経営成績を示す財務諸表で、収益、費用の2要素を用いる。

1-2 貸借対照表の作成

X1年3月31日のA社の財政状態は次のとおりである。そこで、解答欄に示した貸借対照表を作成しなさい。

現 金	1,000,000	売 掛 金	2,000,000	買 掛 金	5,200,000
資 本 金	5,300,000	建 物	8,000,000	土 地	4,000,000
借 入 金	1,600,000	貸 付 金	400,000	繰越利益剰余金	?

■ 解答欄

貸借対照表

A社 X1年3月31日 (単位：円)

資 産	金 額	負債・資本	金 額
現 金	1,000,000	買 掛 金	5,200,000
()	()	()	()
建 物	8,000,000	()	()
()	()	繰越利益剰余金	()
()	()		
()	()		()

解答・解説 貸借対照表の作成

貸借対照表

A社 X1年3月31日 (単位：円)

資 産	金 額	負債・資本	金 額
現 金	1,000,000	買 掛 金	5,200,000
売 掛 金	2,000,000	借 入 金	1,600,000
建 物	8,000,000	資 本 金	5,300,000
土 地	4,000,000	繰越利益剰余金	3,300,000
貸 付 金	400,000		
	15,400,000		15,400,000

※資産の内訳は、解答と順番が異なっても構わない。

1. 本問の勘定科目

勘定科目	意味	5要素
現金	紙幣や硬貨などの通貨	資産
売掛金	商品を販売したが代金を受け取っていない場合の、代金を回収する権利	
建物	店舗・事務所・倉庫など	
土地	建物のための敷地	
貸付金	金銭を貸し付けた場合の、その金額を回収する権利	
買掛金	商品を購入したが代金を支払っていない場合の、代金の支払義務	負債
借入金	金銭を借り入れた場合の、その金額を返済する義務	
資本金	株主から出資を受けた金額（元手）	資本
繰越利益剰余金	会社が稼いだ金額（利益）	

2. 繰越利益剰余金の金額

まず、資産と負債の差額から資本合計を求める。そして、資本合計から資本金の額を引くことで繰越利益剰余金を算定することができる。

$$\text{資本合計} : \text{資産合計} 15,400,000 - \text{負債合計} 6,800,000 = 8,600,000$$

$$\text{繰越利益剰余金} : \text{資本合計} 8,600,000 - \text{資本金} 5,300,000 = 3,300,000$$

POINT

- 勘定科目は、「その勘定科目は、どの要素に属するのか」をおさえることが重要。
- 資産は、会社が所有するすべての財産のことで、現金、物、権利に分類される。
- 負債は、資金の調達源泉のうち返済義務のある金額のこと。
- 資本は、資金の調達源泉のうち返済義務のない金額のことで、元手と利益に分類される。

1-3 損益計算書の作成

X1年3月期（X0年4月1日～X1年3月31日）のA社の経営成績は次のとおりである。そこで、解答欄に示した損益計算書を作成しなさい。

売上	780,000	仕入	412,000	給料	280,000
水道光熱費	83,000	受取手数料	45,000	支払利息	70,000
受取利息	51,000				

■解答欄

損益計算書			
A社	X0年4月1日～X1年3月31日		(単位:円)
費用	金額	収益	金額
仕入	412,000	売上	780,000
()	()	()	()
()	()	()	()
()	()		
()	()		
()	()		()

解答・解説 損益計算書の作成

損益計算書			
A社	X0年4月1日～X1年3月31日		(単位:円)
費用	金額	収益	金額
仕入	412,000	売上	780,000
給料	280,000	受取手数料	45,000
水道光熱費	83,000	受取利息	51,000
支払利息	70,000		
当期純利益	31,000		
	876,000		876,000

※ 収益及び費用の内訳は、解答と順番が異なっても構わない。

1. 本問の勘定科目

勘定科目	意味	5要素
売上	商品を販売し販売代金を得た場合の収益	収益
受取手数料	取引を仲介し仲介手数料を得た場合の収益	
受取利息	貸し付けたお金に対する利息を得た場合の収益	
仕入	商品を購入した場合の費用	費用
給料	従業員に給料を支払った場合の費用	
水道光熱費	水道光熱費を支払った場合の費用	
支払利息	借り入れたお金に対する利息を支払った場合の費用	

2. 当期純利益の金額

収益合計876,000 - 費用合計845,000 = 31,000

POINT

- 勘定科目は、「その勘定科目は、どの要素に属するのか」をおさえることが重要。
- 収益は、繰越利益剰余金の増加要因のこと。
- 費用は、繰越利益剰余金の減少要因のこと。

1-4 借方と貸方
 / /

次の①～⑧の勘定科目について、増加（発生）の際に借方に記入されるものと、貸方に記入されるものとに区分しなさい。

- ① 現金 ② 資本金 ③ 借入金 ④ 建物
 ⑤ 貸付金 ⑥ 給料 ⑦ 売上 ⑧ 仕入

■ 解答欄

借方	
貸方	

※番号で答えること。

解答・解説 借方と貸方

借方	① ④ ⑤ ⑥ ⑧
貸方	② ③ ⑦

1. 判断基準

各5要素の定位置側を増加（発生）とする。

2. 本問の勘定科目と5要素

勘定科目	5要素	定位置	
① 現金	資産	借方	貸方
② 資本金	資本	借方	貸方
③ 借入金	負債	借方	貸方
④ 建物	資産	借方	貸方
⑤ 貸付金	資産	借方	貸方
⑥ 給料	費用	借方	貸方
⑦ 売上	収益	借方	貸方
⑧ 仕入	費用	借方	貸方

POINT

- 各5要素の定位置側を増加（発生）とする。
- 資産・費用の定位置は借方、負債・資本・収益の定位置は貸方。

1-5 貸借対照表と損益計算書の関係

次の空欄①～③に当てはまる金額を答えなさい。

1. 前期（X0年3月31日）の貸借対照表は次のとおりである。

資 産	800	負 債	300
		資 本 金	400
		繰越利益剰余金	100
	800		800

2. 当期（X0年4月1日～X1年3月31日）の財務諸表は次のとおりである。

費 用	金 額	収 益	金 額
費 用	350	収 益	920
当期純利益	(①)		
	()		()

資 産	1,570	負 債	500
		資 本 金	(②)
		繰越利益剰余金	(③)
	()		()

■ 解答欄

①		②		③	
---	--	---	--	---	--

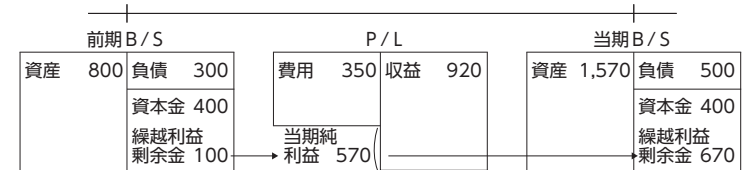
解答・解説 貸借対照表と損益計算書の関係

①	570	②	400	③	670
---	-----	---	-----	---	-----

1. 各金額の算定

- ① 収益920 - 費用350 = 570
- ② 前期B/S 資本金400
- ③ 前期B/S 繰越利益剰余金100 + P/L 当期純利益570 (①) = 670
※損益計算書の当期純利益の額だけ、貸借対照表の繰越利益剰余金は増加する。

2. 全体像



3. ③の別法

- ③の金額は、資本合計から資本金を引くことでも算定できる。
資本合計：資産1,570 - 負債500 = 1,070
繰越利益剰余金：資本合計1,070 - 資本金400 = 670

POINT

- ・損益計算書の当期純利益の額だけ、貸借対照表の繰越利益剰余金は増加する。
- ・貸借対照表と損益計算書の関係
前期B/Sの繰越利益剰余金 + P/Lの当期純利益 = 当期B/Sの繰越利益剰余金